

**「活字の海に寝転んで」**

椎名 誠／著 岩波書店 2003年7月発行  
2階一般開架図書 (請求記号：914.6)

活字の海に寝転んで・・・この書名に惹かれて手にとった活字大好き人間の私、単なる本の紹介書ではない。おもわず起き上がって読みたくなる面白すぎる一冊である。

辺境の食卓と題してサバイバル要素の強い食べ物の本が多く紹介されているが、それに肉付けするように、さまざまな冒険記、旅行記の紹介も満載されている。活字、食べ物、子どものころから「2年間の休暇」をはじめ冒険記が大好きだった私にとってどの本も椎名誠の食への徹底したこだわりと辛辣な眼差しが冴えわたった軽妙な筆致で描かれたこの紹介書、わくわくする興奮にみまわれ出てくる本どれも読んでみようと思わされる。

この本は著者の活字シリーズ、『活字のサーカス』、『活字博物誌』についで第三弾であるが、前作2作もテーマに添った本が面白く紹介され活字の好きな人はより一層、そうでない人はそれなりに活字大好きになる素晴らしいシリーズです。

**「ルーディーボール エピソードⅠ シュタードの伯爵」**

斉藤 洋／著 講談社 2007年9月発行  
1階子ども読書室 (請求記号：913/サイ)

動物の顔を持つ住民が住む星「ルーディーボール」。かつて、「ルーディーボール」を支配した帝国は滅びいくつかの公国に分裂した。そうした公国の一つシュタード伯爵領に囲まれた治外法権の村「ドルフ」。その住民は荒涼とした土地に縛り付けられ密貿易や盗賊稼業で身を立てる以外になかった。

馬車強盗稼業の猫顔のラックス、犬顔のインギースク、兎顔のバーサルの3人は襲撃した馬車から奪った大量の伯爵の金貨を“闇”で両替すべくカーテルベリ公国の男爵とその従者に身をやつし、「ドルフ」を出て伯爵領の都グラフマルクに旅立った。“男爵ご一行”として順調に見えた旅だったが、帝国の復活を目論む公国の密使と間違われた3人は一族を鉱山奴隷として売られようとしていたコウモリ顔のアトラマーダ族の反乱に荷担することになり・・・。

左手の秘密、“風隠し”の伝説、皇帝の三武具、失われた皇帝の血脈・・・、デビューから20周年を迎えた作者が贈るファンタジーの醍醐味をふんだんに盛り込んだ壮大な物語。読者はラックス、インギースク、バーサルの3人とともに「ルーディーボール」に渦巻く陰謀と謎を解き明かす旅に出る。

「昼の学校 夜の学校」

森山大道／著 平凡社 2006年8月発行  
2階一般開架図書 (請求記号：740.2)

最初にこの本の表紙を見たとき“メダカの学校”という言葉が頭に浮かんだ。「昼の学校 夜の学校」は、ほのぼのとした柔らかいタイトルだ。しかも表紙には著者・森山大道氏の顔イラストが描かれていてその真ん中に彼の目鼻のようにうまくタイトルが配置されており、メダカの学校の先生は森山氏なのかなと連想してしまう。森山大道氏は、表紙の顔イラストどおり永遠の青年の如く・・・の風貌を持つ1938年生まれの当年69才の写真家である。

この本は、彼が2003年から2005年までの間に東京工芸大学や東京ビジュアルアーツ等で行ったレクチャーを一冊にまとめた講義録＝対話集だ。あとがきで著者はこう言う。『・・・いくつかの対話の機会に、幾多の写真家を目指す若い人たちから発せられる問いに対して、その場で、あたうかぎり素直に応答したものである・・・』と。

多くの学生たちから投げかけられる実に様々な質問に対し、たった一人で答えていく著者と学生たちの対話を紙上で読むと森山大道氏の写真に対する内なる想いや心象風景が立ちのぼり、読後感はいまことに爽やかな心地良さがあつた。写真家としての自負心と人間としての謙虚さが同時に感じられる一冊だ。

「凶区 Erotica」

森山大道／著 朝日新聞社 2007年6月発行  
2階一般開架図書 (請求記号：748)

前述の同じ著者の「昼の学校 夜の学校」は対話集であり写真は含まれていないので森山大道の写真集「凶区 Erotica」を紹介したい。

この写真集は、まず一回目はページをパッパッとリズム良く迷わずめくって行ってほしい。そしてまるごと一冊を味わった後の二回目はじっくりと1ページずつ眺めてほしい。どの写真にも“いつ、どこで”撮ったかは記されていないが、隅々まで見ると写真の何処かになにかしらのヒントが浮かび上がる。世界各地のある日ある時を一瞬に捕らえたそれらのスナップショットは、読者の中に蓄積された感覚や体験を呼び起こす。それは、写真を通しての作者と読者の心の対話ともいえる。写真集をめくっているとある一ページにくぎ付けになった。自分の思い出のひとつの風景が突如現れ楽しい記憶がありありと甦ったからだ。こんな楽しみ方、もある。

巻末には、この写真集「凶区 Erotica」を含めて森山大道に関する評論<永遠のコピー(赤坂英人著)>が収録されているので併せてお読みになってはいかがでしょうか。

ちなみに私が“くぎ付けになった”写真は、『ロンドンのウォータールー駅。パリ・ブリュッセル行きの国際列車ユーロスターの改札口』だった。くぎ付けの理由は、内緒です。